

エリィとミィ

～ドアをあけると…～



エリィは、あきっぽい おんなのこ。

つみきも おままごとも ゲームも あきてしまいました。

「どこか ステキなところに いきたいな」



「ぼくが たのしいところに つれていってあげるよ」

ねこの ミイがそうだったので

エリィは ミイに ついていくことにしました。



ミイについていくと ドアがありました。

「さあ、エリィ。ドアをあけて」



エリィガドアをあけると…
さわやかな かぜが ふいてきました。



そこは もりの なかでした。

エリィとミィと どうぶつたちは いっしょに
たのしく うたいます。

でも そのうち あきてしまいました。

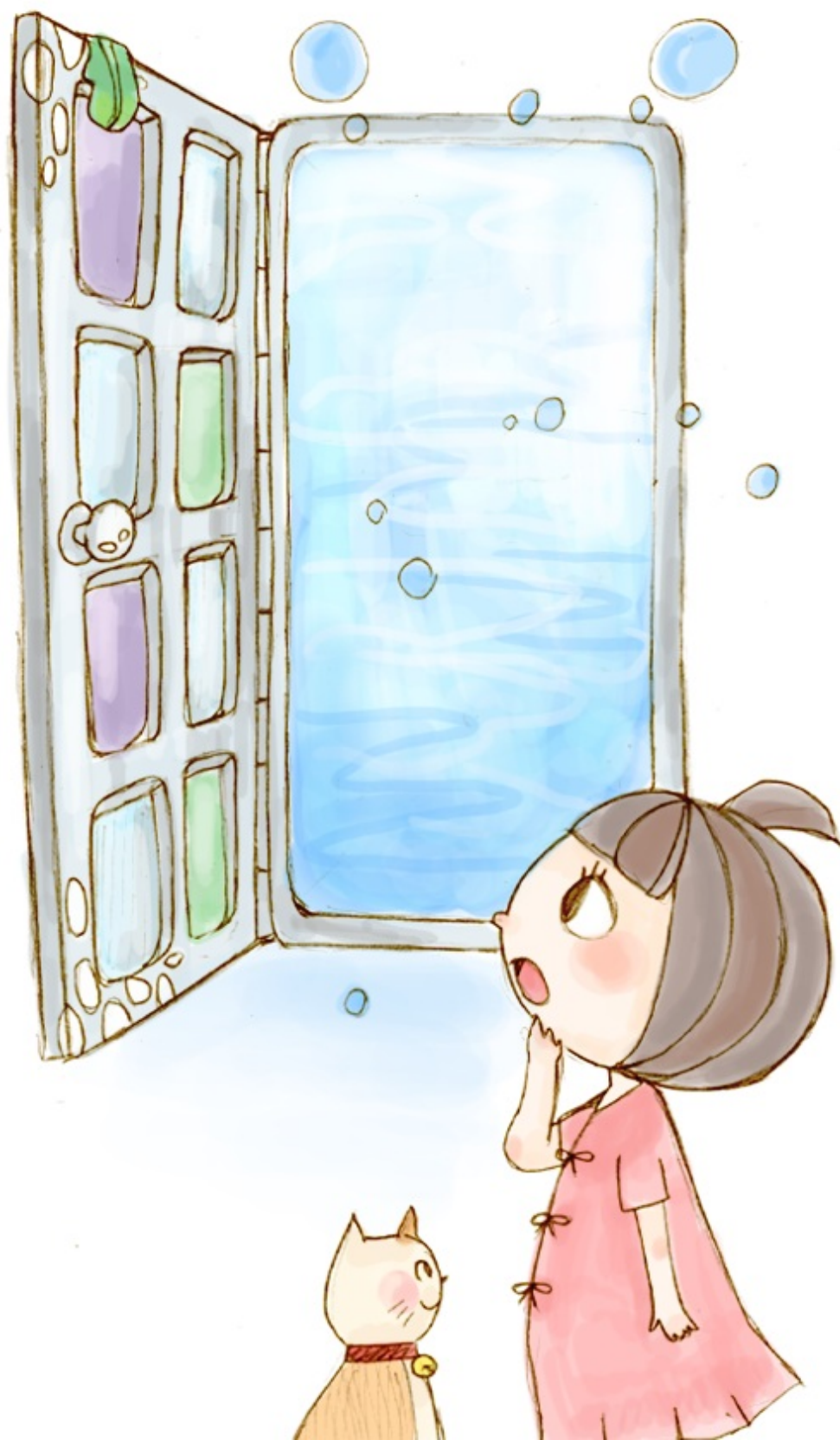


ミイについていくと また ドアがありました。

「さあ、エリィ。ドアをあけて」



エリィガドアをあけると…
すぎとおった みずが みえました。



そこは うみの なかでした。

エリィとミィと にんぎょたちは いっしょに
たのしく およぎます。

でもでも そのうち あきてしまいました。



ミイについていくと また また ドアがありました。

「さあ、エリィ。ドアをあけて」



エリィガドアを あけると…
キラキラした ひかりが ひろがりました。



そこは よぞらの なかでした。

エリィとミィは ほしから ほしへと あるきます。

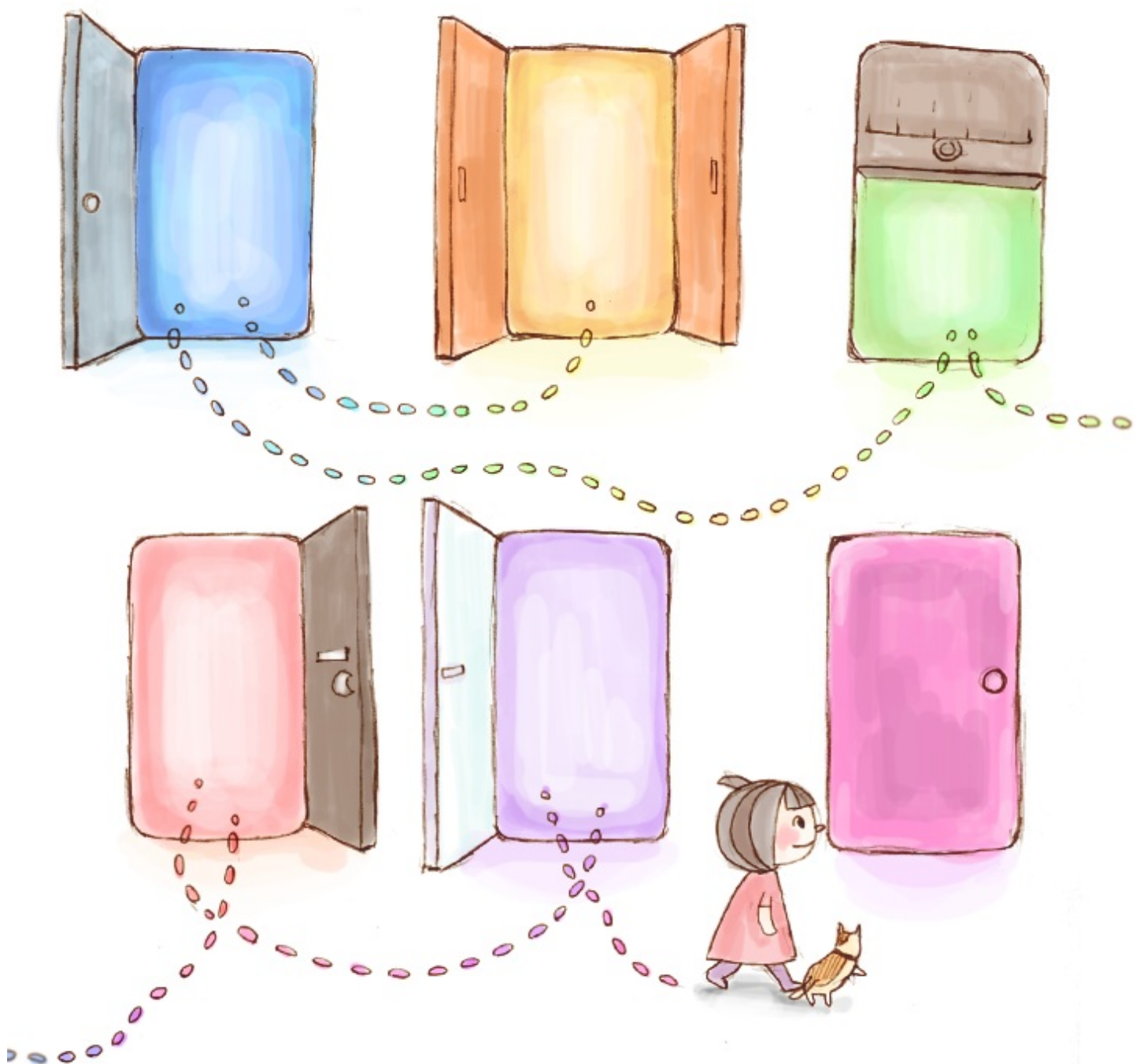
でもでもでも そのうち あきてしまいました。



たくさんの ドアをあけ

たくさんのところに あそびにいきました。

とても たのしいのですが… なんだか…



エリィは すこし さみしくなってきました。

「ミィ、そろそろ いえに かえろうよ」

ミィも すこし さみしくなってきました。

「でも…。かえるドアが わからなくなっちゃった」

もう いえに かえれません。





かなしくて かなしくて
なみだが ぽろり。



かなしくて かなしくて かなしくて
なみだが ぽろり、ぽろり。



ふたりのなみだが 地面に落ちて
したから はなが ぐんぐん
のびてきました。

はなにのって ふたりは うえへ うえへ

くもを めけると はなばたけ でした。

そこにドアが1つ ありました。

これで、家に かえれるはずです。



おおきな はなに おれいをいい
エリィガドアをあけると…
ふたりを よぶこえが きこえてきました。



エリィとミィは おかあさんに とびつきました。

「ただいま！！」

ここがふたりにとって いちばんの ばしょ。

どんなに ステキでたのしい ばしょも かないません。

